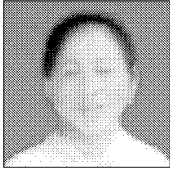


チャクモ・キ 27才前後 死亡 2012/11/17



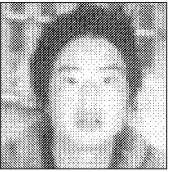
アムド、レブゴン地区。午後4時頃、ロンウォ鎮の税務署の前で焼身抗議。「ダライ・ラマ法王をチベットへ！ 言語自由！」と叫んで、その場で死亡した。また「民族平等。習近平はダライ・ラマ法王と会うべきだ」と遺書を残していた。ロンウォ僧院には僧侶と一般チベット人数千人が集まり葬儀が営まれた。彼女は二児の母で、西寧やツェコクでタクシー運転手をしていた。

サンダク・ツェリン 24才 死亡 2012/11/17



アムド、レブゴン地区、ツェコク県。午後7時頃、ドカルモ郷の政府庁舎前で焼身抗議。当日朝、当局によって集会が開かれ、「焼身者の家族を訪問してはならない。僧侶が吊問した場合は僧院を閉鎖する」と命令が出された、まさにその場所での焼身だった。彼は「ダライ・ラマ法王はチベットへお帰りになることができず、パンチェン・リンポチェは獄に繋がれたままだ。このままではこの世に生きていても仕方がない」と話していた。

ワンチェン・ノルブ 25才 死亡 2012/11/19



アムド、ツォシャル。午後8時頃、カンツァ僧院のそばで「ダライ・ラマ法王をチベットへ。パンチェン・リンポチェを解放せよ。チベット人には自由が必要だ」と叫び焼身抗議を行った。彼は11月8日に僧院で営まれた法要で、年配のチベット人らが悲しみのあまり気を失うのを見て、衝撃を受けていたという。カンツァ郷はパンチェン・ラマ10世の故郷。この焼身について新華社は「兄の僧侶の部屋で内側からカギをかけて焼身した」と発表している。

ツェリン・ドウンドウツプ 34才 死亡 2012/11/20



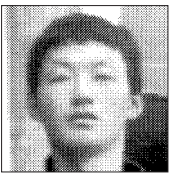
アムド、サンチュ、アムチョク。午前8時半頃、ギャガル草原にあるゴン・ンゴン・ラリ金鉱山開発場の入口付近で焼身抗議を行い、その場で死亡した。三児の父で、いつも微笑みを絶やさず村人にも好かれていた。彼は普段から福祉に関心を持ち、また鉱山開発を憂慮していた。焼身の現場となった場所では聖山をえぐるように金採掘が進められており、飲料水や草原が汚染されるとして、地元政府へ開発中止を求める陳情書が出されたり、抗議デモが行われていた。

ルンブム・ギェル 18才 死亡 2012/11/22



アムド、レブゴン地区。午後4時すぎ、ドワ郷の路上で中国政府のチベット政策に抗議するために焼身を行い、その場で死亡した。ドワ郷では焼身抗議やデモが相次いだことから警戒態勢が敷かれ、役人が焼身者を非難する演説や貼紙を出していた。このような弾圧に対する抗議ではないかと話す者もいる。この焼身について新華社は「リボン・ツェリン、19才」と発表している。

タムディン・キャブ (元僧侶) 23才 死亡 2012/11/22



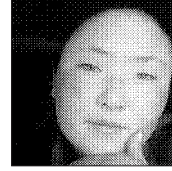
アムド、ルチュ。夜中頃、ルチュの町近くのルチュ川の河原で焼身抗議を行った。翌朝に遺体が発見され、シツァン僧院で法要が行われた。彼は2006年にシツァン僧院の僧侶となったが、翌年還俗、その後は遊牧をしていた。焼身のニュースを聞くたびに「自分もそのようなことができたら素晴らしいだろう」「ダライ・ラマ法王がチベットにお戻りになれないなら、生きていても死んでいても変わらない」と語っていたという。

タムディン・ドルジェ 29才 死亡 2012/11/23



アムド、レブゴン地区、ツェコク県。午後6時半頃、ドカルモ郷の政府庁舎の前で焼身抗議を行った。炎に包まれながら歩いた後、倒れ、再び起き上がるとうとしたが、崩れてその場で死亡したという。彼は焼身の直前に会った友人に「こんな弾圧といじめの下で過ごすのはもう嫌だ」と話していた。同じ場所で11月17日にはサンダク・ツェリンが焼身、死亡している。

サンゲ・ドルマ (尼僧) 17才 死亡 2012/11/25



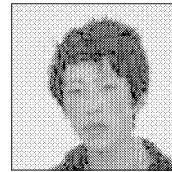
アムド、レブゴン地区、ツェコク県。午後10時頃、ドカルモ郷バルコル村で焼身抗議、その場で死亡した。「お戻りになられた」と題された遺書を残して、チベット人たちに希望を捨てず、未来のために闘いを続けるべきだと訴えた。ドカルモ郷では2日前の23日にタムディン・ドルジェ、17日にサンダク・ツェリンが焼身抗議、死亡している。

ワンギェル (元僧侶) 20才前後 生死不明 2012/11/26



セルタでの焼身は初めて。午前11時半頃、セルタの金馬広場で中国政府のチベット政策に抗議する焼身を行った。炎に包まれながら「法王をチベットに。チベット人には自由が必要」と叫んで金馬像の前まで走り、倒れた。常時配備されていた警備部隊が彼を運び去ったが、安否は不明。セルタでは2012年1月には大規模な抗議デモが起きていた。また3月には17才の学生が焼身を図ろうとし逮捕されている。

クンチョク・ツェリン 18才 死亡 2012/11/26



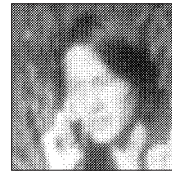
アムド、サンチュ。午後、ギャガル草原にある金鉱山開発場の入口近くで焼身抗議、その場で死亡した。11月20日にツェリン・ドウンドウツプが焼身したのと同じ場所だった。アムチョク郷ワンケン村の出身。すでに結婚しており、19才の妻サンゲ・ツォを残した。

ゴンポ・ツェリン 24才 死亡 2012/11/26



午後6時頃、アムド、ルチュ、アラ郷のアラ・デウゴ僧院前で焼身抗議。「チベットには自由が必要だ。人権が必要だ。ダライ・ラマ法王をチベットへ」と叫び、その場で死亡した。息子ツェリン・サムドゥブ(6才)、長女ツェリン・ドルマ(3才)、次女ツェリン・ラモ(2才)の父親。

サンゲ・タシ 18才 死亡 2012/11/27



午後11時半頃、アムド、サンチュ、サンコク郷で焼身抗議。「ダライ・ラマ法王をチベットにお招きすべきだ。パンチェン・リンポチェをはじめ、全ての政治犯を開放せよ」と叫んだ。焼身を行う直前に従兄弟のツェベに電話で「今日、チベットのために焼身する」と話し、その後電話は不通となった。サンコク小学校で4年勉強した後、家の遊牧の仕事を手伝っていた。彼は普段、親の話をよく聞く、品行正しい若者だったという。

ケルサン・キャブ 24才 死亡 2012/11/27



午後6時半頃、アムド、ンガバ、キャンツァ郷の役場前で焼身抗議、その場で死亡した。彼は身体にガソリンをかけてから役場前へやってきて、火をつけた。子供の時から親の遊牧を手伝い、学校には通ったことがなかった。性格はおとなしく無口な方で、数日前から周囲の人に「自分は焼身をする」と話しており、「チベットに幸せが実現するために命を火に投げ出す」という遺書を残している。